



ROTARY BRINGS HOPE

ロータリーは 希望をもたらす

国際ロータリー会長 M. A. T. カパラス 第256地区ガバナー 藤田 説量 (三条)

会長 — 日戸 平太 幹事 — 上木 六治 SAA — 外山 雅也

例会日 毎週水曜日 12:30

例会場 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 (TEL 34-3311)

事務局 三条市旭町2-5-10 (TEL 35-3477)



出席率: 会員 67名中 49名 : 先々週出席率: 94.03% (前年同期 95.08%)

今日のお花: ケイトウ、小菊

ヴィジター: 村上より 八子健二君

三条南より 池田 繁君

三条ローターアクトより 坪井重憲君、小倉伸康君

ゲスト: 燕市新産業誘致開発機構 中野邦夫室長殿

先週のメイクアップ: 8/17 IGF打ち合せ会議 (三条) へ

藤田説量君、山本福七君、小林英雄君、渡辺宏策君、

梨本清一君、高橋清見君、野村竹三郎君

8/18 三条南へ 鈴木宗資君

8/19 分水へ 中川由春君

会長挨拶: 日戸会長

日本中で一番大きなお盆の送り火は京都大文字山のそれでありましょう。「燃えて身を焼く大文字」祇園小唄にはこううたわれています。「大文字」ですが「身を焼く大の文字」ではなく大もん字と読ませております。身を焼くのですから、燃えるのは心でしょうか? もんぜつする、もだえる、もんもんとする……もだえ焦れるなどなど、燃えてともん字のもがかかっている様にみえます。

人は人の側面のかたち、正面は大の字。大の字にひるねするなどです。大の字は人でありませう。天地と共に大きいもの — 人をもって大きいことが示されました。心が燃え、身を焦す人、大きなすばらしい人の文字 — 文章 — そういうお人から来た love letter、そういう人に送る心の想い、大文字はこの様に解釈されましよう。

最新のクラブ週報は交換学生の記事で一杯です。エミー嬢の手紙を編集委員に訳して戴きました。

幹事報告： 上木幹事

- 指宿ロータリークラブ 創立20周年記念誌
- 前原勝樹バスターガバナー（桐生）より「ロータリー入門書」のご案内
- ロータリー適用相場 9月1日より 1ドル156円
- 1988～89年度、地区ガバナーに樫内悌三郎君（新発田RC）
- 分水ロータリークラブ 例会変更
8/26（火）PM6:30～ 野積海水浴場
- 本部より RIニュース、情報抄録

ニコニコBOX ￥8,000



- 森井君 卓話ゲストの中野さんをお迎えして。
- 斎藤(弘)君 18日夜7時15分頃の近所の火災に、沢山の方から御心配を戴き、又見舞品を戴き、本当に有難う御座居ました。お陰様にて、何の被害もなく、助かりました。
- 渡辺(宏)君 月初めに女房と北海道旅行をして来ました。バスで1,500Kの旅でしたが、北海道知事は選挙の時大変だなあと感じました。
- 広岡君 盆踊り大会、新小路ばんばん世話役大変でしたが、大盛況で、ほっとしました。
- 高森君 さる8月14日の本寺小路の盆踊りに何十年振りに参加して、踊って参りました。昔のことを思い出して楽しく過ごしました。
- 平原(信)君 お盆休みを利用して社員と車で秋田、角館、田沢湖、八幡平、十和田湖を回り、初の高速東北自動車道を通り、全行程1,300Kのドライブを、あまり混雑もなく楽しんできました。
- 堀川君 久しぶりにホームクラブ出席。交換学生が22日来日、三条にきます。よろしくお祈りします。
- 加藤君 盆休みに「のらぎ会」の仲間と北海道、札幌へゴルフに行ってきました。2日間トータル成績の優勝をしたようです。

委員会報告：

- RA地区年次大会実行委員会 坪井委員長
9月14・15日の地区年次大会の開催に就いて、三条RCの皆様全員登録ということで、バックアップをして戴くことになり、前夜祭、本大会共に何卒多数の方の参加をお願い致します。
- 親睦活動委員会 斎藤委員長
次週例会は交換学生の歓迎会をVIP玉姫殿でPM6:30よりに変更となります。多数の出席をお願いします。



卓話： 燕市新産業誘致開発機構について 中野邦夫殿
昭和36年 燕市役所商工課勤務
昭和52年 企画財政課勤務
昭和60年 燕市新産業誘致開発機構事務局長に就任
燕市におきましては勿論、隣の三条市も同様なのですが、産業立地と云うことで行政、社会福祉、産業振興を図った中で行政の取組が重要な課題になっておるものから、燕地区の産業構造が洋食器、ハウスウエアに偏重し過ぎているのではないかと、従来の高度成長期に

は、それが一つの産業の振興に繋がったわけですが、今日の多様化した産業の中ではハウスウエアだけに何時までも取組んでいたのでは、業界全体の活性化にならないのではないかと、業界団体、業界有志の方々の強い要請があり、燕市新産業誘致開発機構を設置したわけですね。

概要

- 1. 目的 新分野への参入、新産業誘致、企業誘致、異業種交流等の施策を積極的に進め、本市産業の総合的發展を図る。
- 2. 設立 昭和60年4月1日
- 3. 構成 運営委員（市3、団体5、企業19）
- 4. 役員 会長 燕市長 南波憲厚
副会長 燕商工会議所会頭（有）柴山機械製作所社長
- 5. 顧問 新潟県議員 高山 巖
- 6. 指導・助言者 長岡技術科学大学名誉教授 手島立男
新潟県経済社会リサーチセンター理事長 伊奈重熙
北越銀行企画部長 小柳喜貴
新潟県工業技術センター館長 鈴木誠一
- 7. 事務局職員 3名
- 8. 登録企業 98社
- 9. 受注斡旋数 60件（61.4.1～7.15）

燕市新産業誘致開発機構は、燕市内の豊富な企業情報を基に、生産加工技術など企業が必要とする価値ある情報を提供しています。

- ・取引先の照会と受発注 ・加工技術、設備情報 ・工場進出に伴う立地情報

昨年発足して以来ガイドブックを約3,000冊作り、県外の金属関連の分野に配布致しました。今日お話を申し上げる課題と致しましては、地域の活性化と云うことが私共の仕事の一番のメインですが、金属洋食器とハウスウエアの二大産業を抱えて、昭和30年代以来50年代に涉って伸びて来たわけですが、現在は後進国の追上げとか国内に於てもギフト面の低迷で内需の拡大が出来ない中であって、プレス、メッキ、金型加工とかの産業を見ますと、個々には新しいノウハウを持っておるのですが、地域に業界が集中しておるので情報の収集とか色々な面での対応が今日まで対応出来なかったもので、そういう面に対して行政という看板を掲げながら、お手伝出来るのではないかとということで第3セクター方式でやっておるものです。

例えば洋食器におきましても40年頃は輸出90億円で、50年は205億円、59年は320億円、ハウスウエアは40年に35億円、50年に72億円、59年に110億円とそれぞれその時代に対応して伸びて参りました。その中におきまして行政の予算規模も40年には7億5千万円の予算が、60年には85億円と約10倍の予算規模になってきました。当然市税におきましてもこれに対応するだけの伸びを見てきましたが、約50%が市税の占める割合です。全国的には地方自治体は3割自治と申しまして、約30%が市税の徴収割合になっておるのですが、燕市では約50%弱を市税で賅って頂いておるということで、如何に産業界の活性化が市の財政の重要な役割を果たしてきたかということですが、ここ2～3年におきましては工業出荷額、企業数においても伸びを見ていません。

燕、三条地区に於ても同じような現象だと思いますが、例えば高岡とか瀬戸市等の地場産業のある町ではほとんど同じ様な現象を見ているわけですが、幸にして燕の金属加工に於ては洋食器、ハウス等が駄目であれば違う加工製品を見つけ出せる。例えば自動車部品、カーブミラ

一、ポットといった業種にトライするだけの汎用性のある加工分野があるわけです。そういう中でお手伝をし、企業の中で話合い、将来の計画を立てているわけです。新分野への進出の為の一つのポイントとしましては、社長目らが先頭に立ってやりぬく気があるかということが一つの鍵になるのではないかと思います。そしてあくまでも本業より変えることなく、また自社の技術をしっかり認識して捉まいておく。脱洋食器といっても、あくまでも現在の技術の延長線として、持っている中での延長上でどういう分野に入っていくかと、そしてそれが成功した場合は、次の分野に入るのだという様なことで、大きな掛をしては会社の名誉にも関わるのではないかと。また新しい分野に確率の少ない処に、いつまでも携わっていて、それにしがみ付いていても難しいので、いつ見切を付けて撤退する勇気も必要ではないかと考えています。

進出する中では日頃情報を得る付合いが大事なもので、異業種の交流でヒントを得られる場合もあり、新分野に向う場合相当の勇気と決断を求められるわけですが、自分の会社は今後どの技術を長所として伸して行くのか、自分の企業の協力工場に得意な技術があるとか、下請工場では、この加工が出来るといった繋がりの中で、新しい分野を考えてもらいたいというふうに地場の方々と話し合いを進めております。

燕地区というとプレスとかしぼり加工というのが一つのメインになっておるわけですが、只それだけでは新しい分野に向うだけの繋がりが出て来ませんということを地区の方々は認識をされているわけです。ですから現在三条地区と一緒に取組んでおります三条、燕の集積圏構想につきましても或る程度長期的構想であります、それを進める中に於ても一つのヒントが得られるのではないのでしょうか。また三条と一緒にやっております地場産業振興センターに就きましても、企業個々にとっては、すぐにはメリットが出て来ないと思いますし、利用も中々難しいかと思いますが、産地活性化としてこういう施設を作り、その中に色々の技術情報や、また新しい試作試験機とかを入れることによって、お互が新しい技術に目覚めるとということが一つの切掛けになるのではないのでしょうか。

従来産地産業といえますと、組合が有るから、市が有るからと、県へ行って補助金を貰って来るといって、補助金を貰ってしまうとこれで良かったということで終わってしまう。行政とか組合もとにかく補助金を貰うことに一つの主眼をおいて従来はやってきましたわけですが、ここへ来ますと産業は補助金とか過保護がすぎますと、個々の企業の活性化の芽を摘むことになるわけで、いつの時代でも個々の企業の活性化というものは無くしてはならないし、またそれがかえって業界の将来の為になることです。

私の好きなことばに「苦勞という種を播いて、努力という肥料を注げば、満足という花が咲く」というのがありますが、まさに現在の状況は努力を必要としている時期ではないかと思うわけです。

私どもは小さな組織でたいしたことは出来ませんが、情報の仲介点として業界の皆様にご利用され、それが業界の指針の一つの據処として私共の機構を使ってほしいと思います。

次週例会	8月27日	交換学生歓迎会	午後6時30分～	V I P
次々週例会	9月3日	青少年活動月間		
